

合材製造時

CO₂排出実質ゼロに

バーナー燃料に廃食油

大林道路

大林道路は、アスファルト混合物の製造に伴う二酸化炭素(CO₂)排出量を実質ゼロにするプロセスを確立した。アスファルト混合物の製造過程で行うバーナー燃焼の燃料に、従来用いているA重油に替え、CO₂排出量を実質ゼロとする廃食油を100%使用。電力は環境価値証書を購入し排出量をオフセットする。初弾として同社の基幹プラントである四国支店香川アスファルト混合所(高松市)に専用タンクや制御機器を導入し、今月から本格的に移動した。

香川アスファルト混合所で廃食油を100%使用した燃焼試験、品質試験を実施し基準値を満たすことを確認した。同混合所では年

間約660キロの廃食油を使用する予定で、年間約1700トのCO₂削減につながる見込みという。廃食油は全国油脂事業協同組合連合会(全油連)から供給を受ける。

都市ガスをバーナー燃焼に用いている混合所では、水素を代替燃料とする実証実験を先行して進め、品質基準値を満たした混合物を製造できることを確認済み。液体と気体の代替燃料を使用した混合物製造プロ

セスが整ったことになる。大林グループは長期ビジョンで2030年度に温室効果ガス排出量46・2%削減、50年度のカーボン二

ユートラル実現を掲げる。大林道路は各拠点のカーボンニュートラル化に向け、代替燃料設備に順次切り替えていく方針だ。道路舗装各社の事業ではアスファルト混合物の製造過程で発生するCO₂排出量の削減が課題となっている。同社は「製造プロセスの中で100%CO₂排出量ゼロは国内初」としている。



廃食油設備を導入した香川アスファルト混合所